

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	一般小売店〔土 産〕（店員）	単価の動き	・観光客の客単価をみると、団体客では減っているが、少人数の個人客やビジネス客では一人当たり200円程度単価が上がってきている。
		一般レストラン （スタッフ）	お客様の様子	・前年に比べて来客数が増加するとともに、客単価も上昇しており、売上が増加している。特に領収書の発行枚数が増えており、法人の利用が回復してきている。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	来客数の動き	・先月末日に屋台村がオープンしたことで、集客力がアップしている。周辺飲食店への波及効果も高く、予想以上の好調さを保っている。
		商店街（代表 者）	単価の動き	・月初めに気温が高かったことで低迷していた防寒衣料も中旬以降は安定して売上が生じてきている。客単価も上がってきている。
		百貨店（売場主 任）	お客様の様子	・3か月前の8月は、例年、お盆から月末にかけて消費が落ち着く状況にあるので、客の様子からだけでは単純比較できないが、今月は重衣料を中心に好調さがうかがえる。ただし比較的安定していた食品部門で、ここ4か月連続して売上、来客数が前年を下回っていることが気がかりである。
		百貨店（売場主 任）	お客様の様子	・11月中旬までは気温の高い状況が続いていたが、その後は急に冷え込んだことから、冬物の衣料や靴等の動きが活発化してきている。
		百貨店（販売促 進担当）	販売量の動き	・10月は平年よりも気温が高く推移したため、冬物衣料の動きがなかなか軌道に乗らなかったが、11月に入り気温が下がったことから、顧客への販促活動を行ったところ、顧客の来店が格段に増加した。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・来客数は前年比101%となり、前年比ベースでは前月の90%から増加している。今年は冬の到来こそ遅いものの、景気回復をうかがわせる商品動向が顕著となっている。売上をみると、特に、家電は大型液晶テレビがけん引して、前年比33%の増加、また冬靴のバーゲンも功を奏して、前年比85%の増加となっている。前年比を部門別にみると、衣料品が126%、住居用品が96%、食品が102%、専門店が100%などとなっており、全体では前年比105%で推移している。
		衣料品専門店 （店長）	競争相手の様子	・今月下旬に開店した大型複合商業施設の売上が好調だと聞いている。実際に行ってみたところ、来店も多く、買上率も高いようである。年末が近いということもあるが、消費が上向いていると感じている。
		衣料品専門店 （店員）	お客様の様子	・高単価商品の動きが良くなってきている。またクレジットカードでの支払回数を1回又は2回とする客が増えてきている。
		家電量販店（地 区統括部長）	販売量の動き	・引き続き液晶テレビ、プラズマテレビ等の大型テレビが好調であり、前年比190%で推移している。
		観光型ホテル （経営者）	来客数の動き	・会社や諸団体などのツアー客が堅調である。これまで控え気味だった団体旅行が、じわじわと復活してきている。ただし宿泊単価には多くを望めない状況である。売店の売上は好調に転じてきた。
	設計事務所（所 長）	お客様の様子	・施工中物件の追加工事に対して、寛容になっている気配がある。	
	変わらない	商店街（代表 者）	販売量の動き	・改装を行った店舗では、来客数が増加傾向にあり、販売量が増加しているものの、客は低単価商品を支持する傾向にあり、売上自体は変わらない。商店街全体への来街者は横ばいのままである。
商店街（代表 者）		お客様の様子	・シーズンに入り冬物が少し動き出しているが、客の慎重な態度はなかなか変わらない。セール等には反応があるが、平日は大変苦戦している。	
商店街（代表 者）		来客数の動き	・時期的に観光客もあまり訪れず、地元客も年末を控えて日常の生活を引き締めている。	
一般小売店 〔酒〕（経営 者）		販売量の動き	・9月、10月と売上はやや上昇していたが、11月は天候不順や灯油高騰の影響が生じており、消費に結びついていない。	

百貨店（売場主任）	お客様の様子	・11月下旬から急に寒くなり、防寒コート、マフラー、手袋などの動きが顕著になっている。客の動きから、後半戦は伸びてきている。	
百貨店（役員）	お客様の様子	・中旬になり気温が下がったことから、防寒衣料、特に重衣料等の動きに期待したが、客の買い方は慎重なままであり、購入を決めるまでの時間が長く、今ひとつ売上高が伸びない。	
スーパー（店長）	単価の動き	・客数は前年比103%と伸びているが、単価が5%ダウンしており、結果として売上は厳しい状況が続いている。	
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・客の買上点数、客単価について大きな変動はないが、来客数が減っている。競合店もチラシの回数を多くするとともに、商品価格を下げている。集客に力を入れている様子がうかがえる。	
コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・自社の業績は好調ではあるが、周辺の競合店の業績は軒並み95%台で推移しており、油断はできない状況にある。	
家電量販店（店員）	単価の動き	・客の平均単価が上がらない。	
乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・新商品の販売が短い期間で終わってしまう。	
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・相変わらず年末にかけての盛り上がりがない。最近オープンした大型複合商業施設の影響が気付きである。	
その他専門店【医薬品】（経営者）	来客数の動き	・依然として客は目的買いをしており、浮動客を望めない状況にある。客数を維持するための顧客イベントに依存している状態が続いている。	
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今月前半は一部の観光施設の休業の影響から、観光客の来店が前年を下回ったが、後半に入り持ち直し、全体ではほぼ横ばいであった。客層は観光客が主であるため、イベント等にも左右されやすい。	
タクシー運転手	お客様の様子	・緊急を要する場合を除き、バスや地下鉄を移動手段として利用しているようだ。	
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・住宅業界ではマンションが好調だが、土地付きの戸建て住宅は非常に厳しい状況である。	
やや悪くなっている	スーパー（店長）	販売量の動き	・3か月前と比較して販売量が減っており、95%となっている。10月と比較しても4%ほど販売量が減っており、前年と比べても4%ほど販売量が減っている。
	コンビニ（エリア担当）	それ以外	・通常の商品の動きはさほど変わっていない。ただしクリスマスの予約商品のようにし好性の強い商品の動きがやや良くなってきている。
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・店の催事も良くなく、販売量が悪い。また商店街の売出しも状況を見るとよくない。
	乗用車販売店（従業員）	競争相手の様子	・新型車が出ている販売店はそれなりの売上があるが、出ていない販売店は大きく売上を落としている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前年より契約数が少なく苦戦している。競合店も同様である。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・イベント時の集客はあるが、通常時の来客が少ない。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ランチでは地元企業のビジネスマンが激減して、売上は前年比78%となった。夕食では、告知に力を入れたボージョレーヌーボのディナー企画が功を奏したが、予約以外のフリー客はかなり減少した。ただし悪かった昨年よりは10%ほど上回っている。個室では観楓会を食事会に変更した高単価の団体が入ったことで、前年よりも40%増えた。全体での売上は前年を2%下回った。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・年未年始の宿泊プランの販売状況が悪く、販売人員で前年同期の70%以下に伸び悩んでいる。
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来店数、単価とも伸びず、低下傾向を示している。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・国内旅行の単価が下がっている。単価の高い客と低廉な客とはっきり分かれてきており、中間の需要が伸び悩んでいる。

		観光名所（役員）	来客数の動き	・ロープウェイの輸送人員は前年比で8%の減少となっており、レストランの売上も1割の減少となっている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・再来店率が以前より悪くなっており、それに伴い売上も10%ほど昨年より悪化している。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売量が低下している要因として、所得の不安定さが第一にあり、状況としては非常に悪い。
	悪くなっている	タクシー運転手	来客数の動き	・例年、11月は初雪が降り、寒くなってタクシーの利用も増えてくる時期であるが、今年は暖冬で雪もほとんどないため、タクシー利用客が昨年と比べても大きく減っている。また規制緩和で札幌市内のタクシーの台数が増えているため、乗務員一人当たりの売上も大きく減っている。
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大都市圏での動きが引き続き好調に推移している。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・受注が堅調に推移しており、業績の上方修正や新規設備投資という話を聞く回数が増えてきた。
	変わらない	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・スーパーや量販店における消費動向は、廉価な目玉商品や即売品が主力となり、製造業企業や納入業者は売るための競争に追い込まれ、先行きの展望が開けない状況にある。また得意先からの年末受注の状況は毎年遅くなるとともに受注量の減少傾向が続いており、企業では従業員の賃金引き下げ等で何とか維持している状況である。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・輸送関係では燃料の高騰が影響していて、リストラ等を考えなければいけない状況である。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・現在の受注量は例月と比べて変動がない。相手先での検討自体が進まないことも多く、投資に積極的な状況とは感じられない。
		金融業（企画担当）	それ以外	・設備資金は増加しているが、道内中小企業向けのものには伸び悩んでいる。原油価格の高騰は販売価格に転嫁できない大半の企業の収益を圧迫している。また観光業界では旭山動物園や知床効果で観光客は増加しているが、その効果の恩恵を受けている地域は限られている。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・銀行以外の金融関係への営業を行っているが、設備投資への更なる意欲がみられない。
		その他企業〔コンベンション担当〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・時期的に閑散期に入ってきたが、週末の動きは良い。道外からの割安なツアーのほか、宿泊を伴う講演会や招待会といった団体が入っている。海外からの観光客も動きが良い。
		やや悪くなっている	輸送業（支店長）	取引先の様子
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・シャーシ輸送において船社より再度の運賃値上げ要請があり、一部の荷主から値上げの了解が取れていなかったが、逆ざやで見切り発車した。このままでは経営悪化必至の状態である。
		司法書士	取引先の様子	・11月以降、不動産取引、新築建物の着工が減少しており、不透明な状況である。
		その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）	取引先の様子	・建築関連工事も一段落し、機械器具、消耗資材ともに引き合い、受注が低下傾向にある。建設業の信用不安もあり、停滞感を更に強めている。
	悪くなっている			
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業からの求人数が増加傾向にある。人材派遣の依頼も増加傾向で、特に販売業務の派遣依頼が増えている。年末に向けた特殊事情ということもあるが、企業の業績拡大に向けた動きがみられる。

	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・建設業の求人は減速してきたが、その反面、コンビニエンスストア、スーパー、ファッションなどの小売業の求人が依然として活発である。派遣業や業務請負の求人の好調さも続いている。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・本学の求人数は、10月末現在で昨年度3月末時点の求人数を超えている。現在も多く企業が求人のため本学を訪れている。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・若年層の大都市への流出による人材不足と高齢者のスキル不足によるミスマッチが、特に接客業で顕在化しており、求人決定率が上がらない状況が続いている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数は高いレベルで推移しているが、3か月前よりも更に増え続けているという印象はない。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・地元からの求人数だけでみると微減している。一方、札幌や本州からの求人数は増加している状況である。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規出店、コールセンターの開設などで昨年は大きく求人数が増加したが、今年はその反動で減少となっている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で増加傾向にあったが、ここに来て減り気味になってきており、数か月前までの勢いがなくなっている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年比でみると、新規求人数、新規求職者数ともに増加しているが、新規求人倍率は2か月連続で前年を下回り、改善傾向に陰りがみえる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で14.8%と前月に引き続き増加となった。産業別では医療福祉、サービス業、卸小売業、運輸業が増加し、製造業、金融・保険業が減少となった。4月からの累計では前年比で17.3%の増加となっている。
やや悪くなっている			
悪くなっている	-	-	-